

第2回 保安トップ懇談会（12月5日開催）の概要について

2012年12月6日
石油化学工業協会

最近の保安事故発生状況に鑑み、各社トップによる意見交換と相互啓発の場として11月28日の第1回に引き続き、第2回 保安トップ懇談会を開催致しましたので以下その概要をご報告します。

記

1. 日 時：2012年12月5日（水）10：00－12：00
2. 場 所：化学団体共用会議室（住友不動産六甲ビル 2階A会議室）
3. 出席者：

小野田 泰 東燃化学(同) 社 長
森田 美智男 JNC(株) 社 長
竹下 道夫 宇部興産(株) 社 長
吉川 實 KHネオケム(株) 社 長
水野 愛司 日本ポリプロ(株) 社 長
宮本 昭彦 経済産業省 製造産業局化学課長
高梨 圭介 石油化学工業協会 専務理事

(モデレーター)

田村 昌三 東京大学名誉教授

4. 懇談概要：

はじめに、高梨専務理事から、当懇談会の趣旨及び進め方についての説明に加え、第1回目（11月28日開催）の概要についての紹介があった。

引き続き、田村名誉教授の議事進行にて5社のトップによる保安に係わる意見交換が行われた。

様々な発言があったが、主なものは次のとおり。

- ・ 現状の認識として、トラブル対応経験の減少、自動化・デジタル化による現場感覚の希薄化、コミュニケーション機会の減少、プロセス全体の把握・理解の不足が問題
- ・ 対策としては従業員教育がポイントであり、過去の事故のビデオ研修、火災模擬体験などに取り組むほか、ベテランOBを活用した伝承教育、小集団活動の実践などに取り組んでいる

- ・ 現状を踏まえ、保安システムの充実と日本の現場「カイゼン」文化も大切にした取り組みの双方が必要
- ・ トップとして保安・安全への方針を定め、確実に実行し評価すること及びこれらを最先端まで浸透させる取り組みが重要
- ・ 中断のないトップのメッセージ発信とともに保安従事者の努力を評価することが大切
- ・ 保安の取り組みについての自社の客観的な位置づけの把握も必要
- ・ 今日、各社の取り組みの具体策が聞いて大変参考になったので、今後さらに協会で情報共有を充実して頂けるとありがたい

また、政府に対しては、規制のみで真の安全確保を図ることは無理なことを認識して対応頂きたい旨の発言が行なわれた。

最後に、田村名誉教授から本日のまとめとして「トップの強いリーダーシップのもとに保安対策を一層強化していくことを本日の合意とする」ことの提案が行われ、全員の賛成のもと終了した。

5. その他

今後、同規模程度の懇談会を2～3回開催の予定。

以 上

《本件に関するお問い合わせ先》
石油化学工業協会 総務部（広報担当）
TEL：03-3297-2019